

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 9 月 13 日 (2022.9.13)

【公開番号】特開 2020-192135 (P2020-192135A)

【公開日】令和 2 年 12 月 3 日 (2020.12.3)

【年通号数】公開・登録公報 2020-049

【出願番号】特願 2019-100163 (P2019-100163)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 9 月 5 日 (2022.9.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

20

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の遊技を実行可能な遊技機であって、

駆動手段と、

駆動手段の動作を制御する制御信号を出力する制御手段と、

前記制御信号にもとづいて駆動信号を出力する駆動制御手段と、

前記駆動制御手段から前記駆動信号が入力され、駆動手段へ信号を出力可能な論理回路と、を備え、

30

前記論理回路は、

駆動手段の駆動を示す第 1 信号と、該第 1 信号とは異なる第 2 信号とにもとづいて、前記第 1 信号が駆動手段を駆動させることを示す論理であるときに駆動手段に信号を出力する回路であり、

複数段に N A N D 回路が組み合わされた構成を含む回路であり、

駆動手段は、少なくとも遊技者にとって有利な報知がされるときに駆動し、

駆動手段の動作電圧は、前記駆動制御手段の動作電圧よりも高く、

前記駆動制御手段の動作電圧は、駆動手段の動作電圧から生成される、

ことを特徴とする遊技機。

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

(手段 A) 本発明による遊技機は、

所定の遊技を実行可能な遊技機であって、

駆動手段と、

駆動手段の動作を制御する制御信号を出力する制御手段と、

50

前記制御信号にもとづいて駆動信号を出力する駆動制御手段と、  
前記駆動制御手段から前記駆動信号が入力され、駆動手段へ信号を出力可能な論理回路と  
を備え、  
前記論理回路は、  
駆動手段の駆動を示す第1信号と、該第1信号とは異なる第2信号とにもとづいて、前記  
第1信号が駆動手段を駆動させることを示す論理であるときに駆動手段に信号を出力する  
回路であり、  
複数段にNAND回路が組み合わされた構成を含む回路であり、  
駆動手段は、少なくとも遊技者にとって有利な報知がされるときに駆動し、  
駆動手段の動作電圧は、前記駆動制御手段の動作電圧よりも高く、  
前記駆動制御手段の動作電圧は、駆動手段の動作電圧から生成される、  
ことを特徴とする。

10

(手段1) 他の態様による遊技機は、所定の遊技を実行可能な遊技機であって、駆動手段(例えば、振動用モータ312)と、駆動手段の動作を制御する制御信号を出力する制御手段(例えば、演出制御用CPU120)と、制御信号にもとづいて駆動信号を出力する駆動制御手段(例えば、駆動/発光制御ドライバ900)と、駆動制御手段から駆動信号が入力され、駆動手段へ信号を出力可能な論理回路(例えば、ゲート回路901および集積回路902)と、を備え、論理回路は、駆動手段の駆動を示す第1信号(例えば、第1信号)と、該第1信号とは異なる第2信号(例えば、第2信号)とにもとづいて、第1信号が駆動手段を駆動させることを示す論理(例えば、Lレベル)であるときに駆動手段に信号を出力する回路であり(図5参照)、駆動手段は、少なくとも遊技者にとって有利な報知(例えば、大当りである可能性が高いことの報知)がされるときに駆動する(例えば、変形例における特定演出として振動用モータ312を動作させる)ことを特徴とする。そのような構成によれば、動作異常により不具合が生じる可能性を低減することを安価に実現することができると共に、駆動手段の誤動作による興趣の低下を抑制することができる。

20

30

40

50